長岡新聞
(2006年10月5日)

元気企業 長岡

―シリーズ第9回―

株式会社丸栄機械製作所

【4】技術こそ未来を先取りする

○順風満帆に見える岡部さんですが、実は販売先の倒産にもあっています。現社長の岡部福松さんが専務時代に、彦根地域(滋賀県彦根市)の営業をします。このときに高精密研削盤の製造を勧められました。勧めてくれた方は、琵琶法師として舞台にも立つなかなかの人物であり、この方から〝営業の神髄〟を学んだとのことです。

信頼する相手からの助言です。社長自ら図面を引いて、高精密研削盤の製造がようやく軌道に乗ったときに、なんとしたことか紹介者が急死しました。そのため商社を使いましたが、ここも倒産します。

○それでも自社ブランドを確立したことは、大きな強みです。

持ち込まれたニーズにどのように対応していくか。高い精度を確保しながら低コストをいかにして実現していくか。岡部さんのアイディアは無尽蔵です。「技術・アイディアで優れており、同時に低価格を実行」するのです。おかげで㈱山善(東証1部)や五味屋商店(現ジーネット)など大手の機械専門商社とは、長いおつきあいが続いています。

○昭和40年代の長岡には、自社ブランドを保有するメーカーは「㈱丸栄機械製作所」を含めて15社ありました。

しかし、平成18年の今では、残っているのは岡部さんだけです。生き残ってきた要因には〝技術力〟と〝販売力〟と、そのほかさまざまな要因があるはずです。重要な一つには〝積極性〟や〝前向きさ〟が指摘できるかもしれません。創業してすぐに「英式八尺旋盤」を購入した積極性です。

最近でも宮本製作所の経営を引き継いでいます(平成16年)。同社は経営難から廃業することとし、親会社(燕市)も支援をうち切った大型研削盤メーカーでした。

中・小型の研削盤が主体の岡部さんにとっては、取り扱い製品の幅が広がります。大・中・小と揃えることができれば、いっそう強みが増します。岡部さんは果敢な決断を下しました。

○技術向上には「投資を惜しまない」こと、「技術こそ未来を先取りするもの」なのです。

岡部さんの部屋は、研究室であり応接室です。設計も20年前からIBM CADを行い、今も夜の更けるのを忘れてのめり込みます。

しかも、仕事一途ではとどまりません。子供の頃から写真が好きで今も撮りまくっています。油絵を描きます。版画を彫ります。蕎麦も打ちます。カラオケは抜群。多趣味で時間が足りません。

健康管理としてのスポーツジム通い(ほとんどサウナが目的)では、メンバーとの雑談で一日のストレスを解消します。

一日の疲れを癒してくれるもう一つの趣味は錦鯉です。今回の中越地震で家も庭の池も大きく壊れました。1年かけて自分で間取り設計した家が今年5月に完成し、10カ月の仮住まいから終の住処へ引っ越しました。ようやく落ち着きましたが、残念なことに錦鯉は、知人の池で仮住まいが続いています。早く池を修理して引き取り、一緒に住みたいのです。

(つづく)

《シリーズ全5回・毎週木曜日連載》

(文)長岡新聞社編集顧問・新潟県経済履用問題研究所理事長・松田宣治

宮内工場

企業PROFILE

岡部 福松社長

住所
〒940―2022
長岡市鉄工町
2―3―54

資本金
5000万円

従業員数
40人

【事業の内容】
円筒研削盤、内面研削盤を中心にした高精密、高能率工作機械並びに特殊加工専用機の製造販売。超小型から中型、大型機種まで幅広く対応。